

磐城の民聲

発行日、十一月廿一日(毎月三回)
編輯兼發行印刷人 北川 秀雄
發行所 福島縣平町南町七十八番地
廣告料 五號十二字詰一回 五十錢
一部十錢 一月月二十錢 送料五厘

關彰平支店に責任ある反省を促す

法律的拘束なくんば

社會道義を無視するも恥なきや?

何等防備なき空家に油罐充滿

火災期節に入り平町民不安に怖ゆ

即ち一丁目目抜の南側角より横町にかけて宏大なる店舗を新築移轉油類一切の取引に店頭に於ける人間の來往目まぐるしき程の繁昌を告げつゝある店を……これぞ茨城縣

下館に本店を有し最近石城郡地方に異狀の進出を計りつゝある

關彰商店の平支店である筆者又平町民の一人として平町の一異彩としての同店發展を希望することに躊躇するものでないことを前言として斷つてお

一度横町を覗ひ見 て店頭の盛彩なるに比較して軒續きの一角の餘りにも

暗影張り 陰惨なる狀鬼氣迫るものありて

防備なく 何等の敷設なく一步具体的に述べんに殆んど一枚硝子一重違ひの中に見るも恐るべき充滿せる油罐

疊々として重積し見る者をして何等か

不吉なる豫感 を與ふるもの、如く日

現在この形態を存すること能はざるは言を俟たざるに共に近きは十八日夜一丁目松崎自動車部前に於ける僅々一臺の自動車の火災の騒擾を以つても如何に油による火災の惨害甚しきを想像し得ん今にして反省を促さずんば悔を百年の後に殘さざる事を誰が保證し得るものぞ。

自發的反省

本紙識者の憂言を聞くこと一ヶ年關彰氏の

しが遂に機至らず本號紙狙士のものとして批判警告を發するの止むなきに至りたるを甚だ遺憾とするも果して然らしめし罪何處にありや

然れども關彰氏よ油倉庫として現状にても何等

法律的に制裁なきとし悟として反省する

所なきが然らば言はん單に平町を假の營業所として目前の利殖のみ計るを以つて能事足れりとし

平町百年の繁榮を無視すると論斷さ

るも辯解の辭なかるべし、即法律は

人爲的のものにして而も祐久なるものならず
道徳は不文律に等しけれど社會の存
續する限り不變なり、社會道徳の破壊者にして永遠の
繁榮を望むは木に依て魚を求むるにも増して愚の骨頂
なり、平町民を極度の

不安に陥るの不道徳を敢てなし
貴店の繁榮策何處にありや、近隣者は近隣者の誼を以
て言はず、識者又類を及ぼすを恐れ黙々たる社會相互
愛に想至らば自ら覺醒する處あらん
本紙は本年度掉尾に於ける本號に於て平三萬町民不安
の聲を代表し敢て本問題掲載する所以は平町將來の
安榮を冀ふ愛町の發露に外ならず

關彰氏よ他縣人たるの觀念を脱却しよりよ
き平町の店舗たらんことに覺醒せずんば他日悔あるを
憂ふると同時に責任ある反省を切に希
望する。

磐陽事業界に躍る
人々のスナツプ(其

小田吉治氏
よう。氏は實際の努力家であつて事業のために飽きず

小田氏は今や炭礦界に於ける超然たる繁榮振りである事が氏の信條であり

富を積み、而して經營する行く而して終日弊服に身を

炭礦は益々優秀なる成績を任せて稼人と共に活動する

見せ打續く不況なる時代に亦氏は絶對に嘘を言はぬ人

當面して超然たる繁榮振りである事が氏の信條であり

を示來しつゝ、其の隆盛さは信用を得る原因である。

寧ろ事業界に於ける美望の尙豪放にして大膽なる内に

的となり亦た奇異としての尤も細心ある注意を要して

感さへも懐かれてある程である事は且つて氏が初めて

なるか翻つて氏の日常と其七十錢大枚の赤字を出した

の經倫とを知り得た者は餘時に於ける氏の憔悴さであ

りにもその當然なるを認る氏としての七十錢は九牛

識するであらう。今氏の卓の一毛であらうが損と云ふ

越せる点を二三例記して見事に於て斯程迄に腐心する

氏の實に大膽にして而かも

細心なるを思ふ時記者は氏

の今日ある萬端を穿ち得る

江口忠一氏

大西郷は無言の内に克く天

下の總てを物語つてゐた。

大人格者である。江口忠一

氏は其の風貌の偉なる点と

堂々たる体軀のあるものが

大西郷に彷彿たる者がある

と共に氏も亦寡言實行の人

であり實際人も驚く努力家

である。氏は遠く九州青森

方面にまで關係を有し常に

席暖る暇もなく東奔西走事

業に善處し以つて堀江工業

の名をなさしめてゐる、今

日の氏の大成は獨り氏一人

のみの成功ではなく進んで

平町に斯る大業家のある事

を思ふとき郷土の誇りと大

呼するに充分なる者ありと

信ずるものである。

丸本商店對カフエー藤彦問

題圓滿解決す

本紙前號に掲げ九は商店對

カフエー藤彦の紛議問題は

其後よく調査の結果九はん

社告

丸本商店對カフエー藤彦問

題圓滿解決す

本紙前號に掲げ九は商店對

カフエー藤彦の紛議問題は

其後よく調査の結果九はん

藤彦主人共單なる感情の相

違よりかゝる事態にまで紛

争するに至りたるものなる

事判明し最もこれを遺憾と

したる町議高橋龜松氏伊藤

一氏の懇切なる調査により

去るに日度抱協なりたる

答なり、本紙はかく圓滿な

る結果を見たことはひと

り店の今後の發展のみなら

ず社會問題上よりしても喜

ぶべきこと、衷心より諸君

と祝意表するものである。

祝 澤村勝爲侯建碑

觀順師銅像竣工
一代の名僧觀順師の遺徳

小川江筋岸一町七ヶ村耕作萬餘の恩恵に浴するに至りて、地面積實に千數百町歩の田らしめし功や當低本紙の盡園が年に豊作も齎らすべき所にあらずるを憾む幾百年の大計たる權慨の難と共に夙夜澤村侯を激勵し事業を身命を賭して樹立し村民救恤に熱心せる觀順師たる澤村勝爲侯を追憶敬慕の徳行や亦宏大無邊に於ける時同時に又或時は侯の澤村侯の遺業と共に永遠良師とし或時は良友として江筋岸民の忘却し得ざる只一人よき理解者として遠ものたる信す。

業完成に助力されし一代の今や其の効績敬仰され而も名僧觀順和尙の公徳を偲ば天高くして馬肥え満目豊ざる者あらん、和尙は草野穂の波沿岸一帯の繁榮を盡村大谷派明光寺十八代總司の時觀順和尙の銅像竣工として任職となるや聰明明澤村侯遺業の建碑の報を傳織寢食を忘れて布教善導に聞かざりたるものなす本社のみ努め當時近郷村民より生佛きたるものなす本社のみとして渴仰敬信を受けつゝの感激祝福のみならん、茲あつた、時偶々小川江筋岸に本社は二氏の略傳を記し一帯が極めて水利の便に乏地元一萬餘の住民と共にそしく年に作物の收穫少く功業を追慕し今や地下永住民の生活状態も從つて悲遠の眼を續ける二傑士の慘であつた、然るに慶安三冥福を祈りてやまざるもの平大早魁に遭遇し江筋一帯なり。

百年の大計の爲時の大藩内藤侯の家臣澤村勳兵衛勝爲侯江筋奉行となり當時の地割頭金賀氏(現在の澤村神社建立の至効者)等外腹心の土に意を休せしめ小川江筋開鑿の大事業を計畫三年三ヶ月の長年月の言語に絶せる苦行の間身を處しなから確乎不拔の身を犠牲にして難行を完成信念毫も動かす途に今日人口にして一

お江戸風味そのまゝ
おでん屋が
驛前新道通りに開業
致しました
是非御試食の上最負
おを御願申上げます
みやこ

草野村	鈴木長壽
草野村	五十嵐新平
草野村	新妻幸太郎
草野村	三谷順教
私立	小林裁縫女學校
草野村	佐藤文具店
草野村	坂本齒科醫院
長野驛前	赤塚自動車部
小川村	白井菊造
小川村	田久徳次郎
赤井村	松本金治



小川江筋由緒

慶安三年庚寅六月大に早す場より用ゆる水は山の麓諸村水に苦しむ稻田十字龜を「勝爲」を鑿つる念殆め列す領主内藤左馬助其臣澤起る仍ち小川に赴き地理村勘兵衛勝爲をして乾固のを點検するに渠に小堰あり田圃を檢せしむ因つて大野此を以つて夏井川を分つ郷諸村を巡視し歸路暫く暑處となし汗跡に沿ふて地勢を光明寺に遷り住僧觀順出を按じ其の宜しきに隨ひ關で迎ふ談話の末泉崎の名に場村より四ッ倉に及ぶ長凡似ず最も水に苦しむ事及六里八町之を經し圖成る茲ぶ勝爲即ち一首を口吟すに於て藩主に食祿五百石の「名には似む泉崎にて水に内三百石を返還し以て其費餓へ實ならぬ村の寺の淋用に供し已れ郡奉行となり「歡順も亦一首を返歌す以て鑿通に従事せんと藩主「稻のため江水引かれ上關家臣と商議し其意見を聞く

小川村	草野正壽
信用組合	遠藤心光
九品寺	本朝忠
美術彫刻	鈴木光吉
町會議員	佐々木龍若
町會議員	和田庄作
町會議員	佐藤齒科醫院
町會議員	木村外科醫院
町會議員	荒木喜太郎
町會議員	榮屋製菓所

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
釜屋商店
東京振替貯金口座一〇九五六番
電話九番九九九番

金成國雅氏
温容の裡に一種犯すべからざる嚴峻な問達つた事は、大嫌いと云ふ大看板を眞向に振りかざし大平町に於ける衛生上に關する。大責任者として今日の名譽を博し、おる氏が今日の土臺を築上ぐる迄には涙に彩られし立志談もあるが、而かも、眼なる氏が率先して着眼し、事業は秩序的に奏効し、今日に至つたのである。而して一面氏は尤も仁俠の氣に

皆曰く可なり承應元年壬辰に幾婦大に起り勝爲を責む二月十五日を以て着手鑿るに利安寺を創め私に除地にて平久保の横山に至る山嘴寄附するを以つて明暦元年夏井村の衝に當り堤崩れ水乙未七月十四日昔堤所平大漏る勝爲焦心苦慮經營の法館西岳寺に於て割腹を命せ中、下神谷、下片寄泉崎馬を得ず既に自殺を期す夜夢らる勝爲慨然として曰く我目村に瀆ぎ原高野細谷二村に護身佛大日如來の告あり一生の事業既に成る國家にを過ぎ大森村に及び山に洞岩に洞せば成らんと翌日人種益する所なきにあらざる死し名木村に出で支出して狗夫をして岩を穿しむ蛇あり復た何が憾まんを從容絶命塚上下仁井田三村の濫漑を數萬盤結人夫恐怖堀る能はの一首を詠じ十字腹を屠て資け長友村を經て戸田村に至り玉造川を斷ち上仁井田四倉村に至りて絡る水門大附す凡を役する所の人夫は爲の名は未代に善提ともなど千町歩遺澤百世に挾し眞郡中を總べ一日幾百人となれ「今其の水道を檢するに大功と謂ふべし。カフエト 黒猫 平町三丁目横丁 電六七九番